

第三者評価結果シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk15076
s24419
神機構-456

③施設名等

名称：	しらかばベビーホーム
施設長氏名：	竹内 幸夫
定員：	19名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	2011/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人誠心会
職員数 常勤職員：	29名
職員数 非常勤職員：	7名
専門職員の名称（ア）	家庭支援専門相談員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（イ）	心理士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（ウ）	保育士
上記専門職員の人数：	21名
専門職員の名称（エ）	看護師
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（オ）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（カ）	児童指導員
上記専門職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	4
施設設備の概要（イ）設備等：	寝室、沐浴室、心理療法室、医務室、診察室、静養室、病室、
施設設備の概要（ウ）：	親子支援室
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>基本理念 「みんないっしょの養育」</p> <p>方針 しらかばベビーホーム中長期事業計画に基づき、子どもの人権に配慮するとともに、子どもひとりひとりの自立支援計画の目標に向けた支援に努めます。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>○家族等が子どもと面会がしやすい身近な施設と感じられるように、そして子どもも家族等を身近に感じることができるように、積極的に面会を受け入れている。面会時間など柔軟に対応し、家族との関係の再構築に努め、家族等と一緒に暮らすことを目標とした支援を行っている。</p> <p>○職員の自主的な施設運営を目指し、委員会方式による運営を行っている。研修委員会や食育委員会、防災委員会、環境委員会、日中活動委員会が活動する他、今年度よりリスクマネジメント委員会を設置している。</p> <p>○開設6年目で若い職員も多いことから、職員の質を高め、子どもたちの支援に活かすことができるよう、人材育成に取り組んでいる。施設外研修には職員1人が年2回位参加し、施設内研修も外部講師を招いて年に複数回開催している。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2016/5/10
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/2/10
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

定員19名の開設6年目の乳児院で、子どもたち一人ひとりの幸せの実現を第一に考え、子どもたちが安心できる環境作りを行っている。愛着関係を築くため、担当養育制をとり、基本的に入所から退所まで継続して担当職員が関わられる体制としている。小規模グループによる養育を推進し、月齢に応じた活動ができるように努めている。また、子どもたちの家庭への引き取りは4～5歳となることが多いため、子どもたちの生活環境を変えないよう、家庭引き取りの見込みのある子どもたちは、最長で就学前まで受け入れることとしている。2歳を超えた子どもについては、個々の子どもの状況や家庭状況などに応じて、幼稚園や認定こども園、障害者通所事業所を活用し、発達を促進するように支援している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

しらかばベビーホームは開設してまだ6年目の施設で、いまだに試行錯誤を繰り返す日々です。そうした中で、通常乳児院と関わりのない第三者の方と話をさせていただいたことで、改めて日常の考え方や取り組みを見つめなおす機会となりました。今までも自己評価の結果を捉えて改善に努めてきましたが、今回の第三者評価の結果も真摯に受け止め、実践している「子どもの最善の利益」のために努力していきたいと考えております。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
理念や基本方針は、パンフレットやホームページなどで周知している。新人職員の入職時には、施設長より説明し、毎年度、事業計画に、方針や支援内容を記載し、2月か3月の職員会議の場で、全職員に説明している。理念や基本方針の保護者への周知は、乳児院の特性から、入所後に説明している。		

1

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		

2

厚生労働省からの資料などは、全乳協を通じて情報を収集したり、インターネットより情報を収集している。子どもの入所人数の推移は、2年前の7月に9人だったこともあり、常にチェックし、暫定定員にならないように配慮している。市の児童相談所以外にも働きかけを行っている。また、県内10施設の乳児院にて統計結果をまとめ、入退所や現状の課題などの把握に努めている。乳児院では小学校就学前までの入所が可能のため、子どもたちの環境を変えないよう継続して養育しているが、年齢によって単価の違いもあるため、経営状況の把握にも努めている。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○	

【コメント】

法令に基づき、子どもや保護者の状態に応じて、小学校就学前までの養育を積極的に行っているが、年齢の高い子どもは単価が低いため、市に状況、現状を伝えるようにしている。また、入所人数イコール収入額に反映することから、不測の事態を考慮して、人件費積立金を行っている。乳児院は、児童相談所からの行政措置決定による入所のため、計画的に入所をコントロールすることができない実情がある。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第二種 評価結果	4	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。		○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。		○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		

【コメント】

国の動きや乳児院の位置付け、定員の動き、入所人数の動きが不透明なことから、あえて長期計画は策定していないが、昨年度に中期計画を策定している。計画には、中期の事業計画、人材育成に関する計画、地域に向けた取り組みの計画などをいれ、職員会議や理事会・評議員会において、内容を説明している。保護者に対しては、閲覧用の資料を玄関入り口に掲示している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○	

【コメント】

昨年度に中期計画を策定したことから、今年度の事業計画は中期計画を反映した内容としている。今年度の事業計画も、職員会議や理事会・評議員会において、内容を説明している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。	6		
①		6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
		<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
		<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○

<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

次年度の事業計画は、施設長が素案を作成し、2月又は3月の職員会議で全職員に内容を示し、職員の意見を集約してまとめている。昨年度から設置した委員会や各係の意見も反映して作成している。事業計画は、2月あるいは3月の職員会議において説明し、夜勤や遅番で職員会議に参加できなかった職員には、資料をレターケースに入れ、内容を確認できるように配慮している。

② 7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

7

【コメント】

これまで、事業計画は保護者には示していなかった。今年度より、乳児院という特性に配慮しながら、面会時に保護者が計画の内容を閲覧できるよう、玄関入り口に掲示している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第二者評価結果	8
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。		
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○	
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		

【コメント】

月1回の職員会議やクラス会議、また各委員会などの中で、常に養育・支援の質の向上に向けた検討を行っている。研修委員会や食育委員会、防災委員会、環境委員会、日中活動委員会の委員会を置き、今年度よりリスクマネジメント委員会も組織し、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

9

【コメント】

前年度の自己評価において「C評価」とした項目について、積極的に改善の取り組みを行い、中期事業計画の策定、地域への貢献、リスクマネジメント委員会の設置、「職員の期待し求められる水準」の設定などの取り組みを行っている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第二 評価結 果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	10
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○	
【コメント】			
職員会議の場で、自ら作成した資料をもとに自分の言葉として役割と責任について発信している。職員会議に出席できない夜勤、遅番の職員には、資料を配布し、必要に応じて個別に説明している。また、毎朝の引継ぎには、可能な限り施設長が出席している。出勤日には、朝の勤務前と夕方に養育室に入り、子どもの状態を把握している。児童相談所とのカンファレンスにも、担当者と一緒に必ず出席している。			
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	11
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○	
【コメント】			
遵守すべき法令などを理解し、被措置児童等虐待についてや児童福祉法の改正などの内容を、職員会議の場などで職員にも伝えている。県乳児院の施設長会、関東ブロックや全国の乳児院の大会などの研修会に参加し、日頃の子どもたちとの関わりで必要となる他の福祉に関する法令や民法などについても情報を収集し、知識として蓄積している。乳児院の特性として、離婚や親権、未成年後見などの問題が起きることがあり、子どもたちのために、家庭裁判所に保護者と一緒に行くこともある。			
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。			
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b	12
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○	
【コメント】			
出勤日には、朝の勤務前と夕方に可能な限り養育室に入り、子どもの状態や養育の状況を把握している。子どもの健康状態に関する判断や当日の動きの判断などは、朝の引継ぎ時などに指示を出している。職員会議やクラス会議の場、また、委員会から上がってくる職員の声を聞いている。職員研修については、内部研修は研修委員会で企画・実施を行い、外部研修は、経験年数や実際の動きを見て、施設長が参加者を決めている。外部研修の参加は、昨年度より多くなっている。			
②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	13
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○	

	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
【コメント】		
職員体制の見直しを行い、以前は非常勤の職員が多かった事務所のスリム化を行い、養育現場の職員を増やしている。月の休日を9日から10日に変更し、また、夜勤手当の引き上げを行うなど、労働環境の改善に取り組んでいる。		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第二号 評価結 果	
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。		b	14
<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。		○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。		○	
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。		○	
<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。		○	
<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。		○	
【コメント】			
これまではケースワーカーが主だった家族支援を、職種に関係なく誰もが関わられるよう周知している。職種間では、職員会議の場などで話し合いを行い、保育士、看護師、臨床心理士、栄養士、児童相談員、社会福祉士などの専門職が連携し、養育・支援に関わるよう努めている。福祉人材の確保や育成を心がけているが、職員の確保などには課題を残している。			

② 15 総合的な人事管理が行われている。		b	15
<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。		○	
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。		○	
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		○	
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		○	
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		○	
<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができて		○	
【コメント】			
昨年度より、社会性から業務実績など16項目の「期待し求められる水準」を定め、常勤の現場職員が自己評価を行い、施設長との面接の際に用いている。施設長との個別面接は、一昨年度より10～11月頃に行い、職員の声を聴いている。非常勤の職員とは、施設長が話し合いを行っている。職員の職種や能力、経験、担当区分などにより、個々に適した外部研修に派遣している。			

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		b	16
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。		○	
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。		○	
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。		○	
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		○	
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		○	
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		○	
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		○	

	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○
--	--	---

【コメント】

新人職員は、入職後3ヶ月目に、施設長との面接を行っている。1年1回の施設長との定期面接の他、職員から希望があった時には随時、施設長や主任が職員の話聴いている。随時の面接では、プライベートなことから子育ての相談など、様々な話がある。子育てをしている職員や妊娠中の職員には、時短での勤務を設定したり、夜勤から外すなど、配慮している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○	17
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○	

【コメント】

昨年度より、社会性から業務実績など16項目の「期待し求められる水準」を定め、常勤の現場職員が自己評価を行い、施設長との面接の際に用いている。施設長との個別面接では、どういう職員になりたいか、どういう研修に参加したいかなど、職員の目標を確認している。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○	18
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○	

【コメント】

内部研修は、研修委員会が中心になり、内容を計画している。昨年度は3回、外部講師を招いて、「感染症研修」などを行った。また、同一建物内の児童養護施設と合同で、昨年度は「調理員のための衛生管理」の研修を、年3回実施した。外部研修は、全乳協、県、市の研修などに職員を派遣し、日頃の業務に活かせるようにしている。外部研修は、職員1人が年2回位参加できるようになり、3年前に比べ派遣人数が増加している。外部研修に参加した時には、復命書を提出し、内容を回覧している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○	19
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○	

【コメント】

職員の職種や能力、経験、担当区分などにより、個々に適した研修に派遣している。開設して6年目で、結婚や出産などの退職により、職員の入れ替わりがあり、職員の年数の積み重ねができていない。明確な階層別の位置付けも難しく、OJTを行える環境が整っていない。今後の課題としている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	
---	---	---	--

20

<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/>	指導者に対する研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生の受入れについては、今年度、受入れマニュアルを作成した。3交替のローテーション勤務のため、同じ職員がつくことが難しいことから、実習生係を6～7人置き、実習生に対応している。実習の希望は多くあるが、日程が重なって受入れができない場合もある。希望があれば、できるだけ受け入れるようにして、昨年度は9校16名の受入れを行った。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第二者評価結果	
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	21
<input type="checkbox"/>	ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
<input type="checkbox"/>	第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	
<input type="checkbox"/>	法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/>	地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

一時保護などの対応もあり、積極的に情報を公開できない環境にある。そのため、ホームページにも、積極的に情報を載せていない。入所の同意が得られている家族には、月に1回、行事や活動の内容を記載した「お便り」を配布している。「お便り」などに子どもの写真を載せる場合は、個人が特定できないように、後姿の写真を使用するなど、プライバシーに配慮している。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	22
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
<input type="checkbox"/>	外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

職員の希望を確認しながら、次年度の委員会や係の担当などの職務分掌を決めて、年度末の職員会議の場で資料として配布している。会計に関しては、法人全体で外部の機関（会計事務所）に相談、助言が受けられる体制を整えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第二者評価結果	
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	23
<input type="checkbox"/>	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○

<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○

【コメント】

乳児院は、小学校就学前の子どもたちの養育・支援の場なので、地域の小学校などとの関わりはない。地域との関わりは、同一建物内の児童養護施設が中心になるが、日々の散歩などの中で地域の人たちとの関わりを深めている。町内会の盆踊りには、乳児院の子どもも参加し、「あしたば祭」では、地域に向けて参加を呼びかけている。

② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	

24

【コメント】

ボランティアの受入れは、事業計画に明示し、受入れを行っている。ボランティアを希望する方には、事前に面接し、乳児院の特性や留意事項などを説明し、面接時にどんな活動を行いたい希望を聞き、可能な限り応じている。現在、玩具消毒や散歩への同行などに、10数名の市内の主婦の方や学生が活動している。子どもたちのヘアカットで、美容室の方のボランティア活動もある。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

25

【コメント】

子どもたち一人ひとりの状況により、関係機関が異なるので、ケースに応じた連携を行っている。児童相談所とは常に連携を取り合い、半年に1回定期的にカンファレンスを行う他、適宜カンファレンスを行っている。家族を含めた三者の話し合いには、施設長も参加している。小学校就学前までの養育・支援を積極的に行っていることから、今年度から、幼稚園、認定こども園、障害児通所事業所に通っている子どもが3名いる。認定こども園までの送迎は、施設長を含めた職員が行っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	b
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○

26

【コメント】

地域住民や地域の支援者に感謝の意味も込めて、毎年秋に、同一建物内の児童養護施設と合同で「あした祭」を開催している。また、昨年度の自己評価の結果を振り返り、研修委員会が中心になって、施設の保育士を町内会館に派遣して、リトミック・リズム体操を行った。リトミック・リズム体操の案内を町内会の回覧板で回覧し、地域に向けた活動を行った。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	27
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○	

【コメント】

今年度初めて、施設の機能を活かして、9月に町内会館で、子どものリトミック・リズム体操を実施した。民生・児童委員とは年1回、話し合いを行い、子どもを引き取った保護者や里親とは、年数回、電話にて状況を確認するなど、相談にも応じている。地域との関係作りは必要だが、乳児院という特性もあり、ある程度の匿名性も必要と捉えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第二号
評価結
果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	28
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○	

【コメント】

毎月開催する職員会議やクラス会議の場で養育方針について必要に応じて話題に出し、養育方針を確認している。職員が入職する際には、施設長より、養育基本方針や乳児院倫理綱領の説明を含めた研修を行っている。職員会議では施設長から被措置児童虐待についての話が年間の中で必ずあり、人権に関する外部研修にも職員が適宜出席している。子どもの養育の定期的な状況の評価や把握については、クラス会議などで適宜、話題にして職員間で合意するようにしている。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	29
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○	

<input type="checkbox"/> 保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

虐待防止のため規程により「子どもを呼び捨てにせず、必ず敬称をつけること」が決められている。実際の呼び方は保護者の希望も取り入れている。プライバシー保護に関しては、個人情報保護規定を定めており、例えば毎月のお便りに載せる子どもの写真は、個人が特定できないように施設長が確認している。また、不適切な関わりについては以前、不適切な対応の疑いがあり、児童相談所に報告した事例があったが、そのような疑いが起きないように努めている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b	30
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		

【コメント】

施設の特性から、事前の見学は少ないが、ショートステイを利用する家族は事前に見学に来ることがあるため、その際に説明を行っている。また、一時保護で急遽利用が決まった家族についても、事後になるが見学の対応や説明を行っている。

② 31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	b	31
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。		
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。		
<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

自立支援計画書は保護者には積極的に開示していない。保護者には面会時に日々の子どもの様子や課題を伝えるようにしている。また子どもの通院時には、同行が可能な保護者には来てもらい、直接医師から話を聞くなど子どもの状況を把握してもらえているようにしている。また保護者の意向が反映されやすいように、児童相談所と施設と保護者の三者の話し合いの場を設定している。

③ 32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。		
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】
 家庭への引き取りは4～5歳となることが多いため、子どもたちの生活環境を変えないように家庭引取りの見込みのある子どもたちは最長で就学前まで乳児院で受け入れる方針としている。また退所直後は施設への相談も多い。年に一回開催する施設のお祭りにも退所児を招待し支援の機会としている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	第二層評価結果	
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	33
□子どもとの日々の関わりのなかで、子どもの満足を把握するように努めている。	○	
□職員等が、保護者等とのコミュニケーションを可能な範囲で図り、定期的に保護者等の満足を把握している。	○	
□把握した子どもの満足を集約する担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために検討会議の設置等が行われている。		
□分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。		

【コメント】
 「子どもたちの満足」については、まだ明確に気持ちを言葉にできる児たちも少ないため、日々の関わりの中で、表情や仕草を通して把握している。「保護者の満足」については、アンケート等は実施していないが、面会の度に保護者に子どもの様子を細かく伝えるようにしており、また保護者からの要望等も出しやすい関係性を築くことを心掛けている。希望のある保護者については、別室にて話や要望を聞くこともある。

(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	34
□苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
□苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。		
□苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		
□苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○	
□苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。		
□苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た保護者等に配慮したうえで、公表している。		
□苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】
 苦情解決の仕組み、体制については、保育室の入り口など、保護者の目につきやすい場所に掲示している。保護者の面会時には、職員が必ず声をかけて、疑問などに迅速に対応するようにしている。疑問や苦情などがあがった時は、職員全体で内容を共有し、解決していくようにしている。

② 35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	35
□保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○	
□保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
□相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	

【コメント】
 苦情解決の仕組み、体制については、保育室の入り口など、保護者の目につきやすい場所に掲示している。保護者の面会時には、職員が必ず声をかけて、疑問などに迅速に対応するようにしている。疑問や苦情などがあがった時は、職員全体で内容を共有し、解決していくようにしている。

③ 36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	36
□相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○	
□対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○	

<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

保護者からの意見や相談は、その日のうちに記録を作成し、他の職員も内容を確認できるよう、パソコンに打ち込む他、記録用紙を配布もしくは閲覧している。保護者からの意見や相談の内容で、必要がある場合には、児童相談所にもつなげている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。 第一回
評価結
果

① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	37
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○	

【コメント】

今年度よりリスクマネジメント委員会を設置し、月1回定期的に開催している。その中で、事故やヒヤリハットについて収集、検証し再発防止策を検討している。検討結果は職員会議にて伝え、周知を図っている。救急救命法についても消防署の協力のもと、同じ内容を2回開催し、職員全員が参加できるよう工夫している。

② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	38
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。		
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。		
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○	

【コメント】

感染症については、看護師が中心になり、職員会議で研修を行い、対応マニュアルの見直しを行っている。保護者の面会時には、検温及びマスクの使用をお願いしている。冬季は加湿器を使用している。ここ2年間で、インフルエンザの発症はない。新生児は、別の部屋で養育している。

③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b	39
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○	
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。		

<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	

【コメント】

同一建物内の児童養護施設と合同で、月に1回防災会議を開催し、避難訓練の計画や反省を行っている。避難訓練に関しても児童養護施設と合同で月に1回開催し、その中で夜間想定や、地震や津波発生時の訓練も行っている。施設の周囲には住宅地がないため自治会との協力体制は取っていないが、施設の隣に消防署の施設があるので連携を取っている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第二種 評価結果	
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b	40
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。		
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		

【コメント】

「しらかばベビーホーム養育基本方針」を定め、職員採用時に文書を配布するとともに内容を説明している。新任の職員に対し、今後は教育係などを決めて対応することなどが必要と捉えている。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	41
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		

【コメント】

標準的な実施方法については月1回開催する職員会議やクラス会議の場で話題にできる度に検討している。各委員会からの意見をもとに実施方法を見直すこともある。また保護者からの意見や提案なども、検討し反映することもある。保護者からの具体的な要望としては「ケガが多いからよく見てほしい」や「エアコンが効きすぎている」などがあつた。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b	42
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○	

<input type="checkbox"/>	自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、保護者等の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
<input type="checkbox"/>	自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
<input type="checkbox"/>	支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

子どもの入所後、3か月以内に児童相談所との合同カンファレンスや児童相談所、保護者、施設の三者の話し合いの中で計画の内容を検討している。現在、保護者には自立支援計画書の内容は積極的には開示していない。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b	43
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○	
<input type="checkbox"/>	見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○	
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

子どもの入所後、3か月以内に児童相談所との合同カンファレンスや児童相談所、保護者、施設の三者の話し合いの中で計画の内容を検討している。少なくとも半年に1回自立支援計画検討会を行い、必要に応じてカンファレンスを行っている。

(3)	養育・支援の実施の記録が適切に行われている。		
①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a	44
<input type="checkbox"/>	子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
<input type="checkbox"/>	自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
<input type="checkbox"/>	記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
<input type="checkbox"/>	施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
<input type="checkbox"/>	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	
<input type="checkbox"/>	パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

子どもの記録については、養護、看護、家族支援の各部門で、記録を残している。情報の共有については、パソコンで確認することもできるが、記録用紙を確認することを基本としている。特に子どもの健康状態を一目で確認できるように、A3版の「生活の記録」に随時、内容を書き込むようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
<input type="checkbox"/>	個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
<input type="checkbox"/>	個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
<input type="checkbox"/>	記録管理の責任者が設置されている。	○	

<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報保護規定を定めるほか文書保存規定も定めている。それらの規定は職員採用時に配布し、内容を説明している。児童相談所からの記録ファイルは事務所に保管している。日々の生活記録等子どもの生活情報は職員の事務所にあり主任を記録の管理者としている。

□

内容評価基準（22項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第二評価結果	
① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b	A1
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているか、振り返り検証する機会が設けられている。		
<input type="checkbox"/> 職員が、子どもの最善の利益の実現を目指し、子どもによりそい、その思いを代弁する役割と使命を共通理解し、その実現に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの最善の利益を実現させるために、日々の養育・支援に関する姿勢や子どもへの接し方等について、振り返り改善する取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 施設全体の養育・支援の質の向上を図るために、研修や自己研鑽によって職員が専門性を高めている。	○	
<input type="checkbox"/> 養育実践や養育の内容に関する職員の共通理解や意見交換を図る機会を設け、協働性を高めるよう取り組んでいる。	○	

【コメント】

「乳児院倫理綱領」や「より適切なかかわりをするためのチェックポイント」を活用し、子どもへの対応を振り返っている。また、職員会議やクラス会議で、不適切な関わりはないか、職員の対応が異なることが子どもにとって良いことかどうかなどを話し合っている。子どもの呼び方は、くん、さん、ちゃん付けを徹底し、呼び捨てにしないようにしている。また、乳児院は子どもを守る施設であることを全職員に意識付けている。日々の支援について、常に振り返り研鑽しているが、さらに研鑽を深めていかなければいけないと感じている。

(2) 被措置児童等虐待対応		
① A2 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A2
<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に具体的な例を示して体罰等の禁止を明記している。	○	
<input type="checkbox"/> 体罰等があった場合を想定して、施設長が職員にその原因や体罰等の方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○	
<input type="checkbox"/> 体罰等の起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、体罰等を伴わない的確な援助技術を習得できるようにしている。		
<input type="checkbox"/> 体罰等の禁止を職員に徹底するため、日常的に会議等で体罰等を取り上げ、行われていないことを確認している。	○	

【コメント】

子どもの名前を呼び捨てにすることは、虐待につながる可能性があるため、呼び捨ては禁止している。職員採用時には、施設長が就業規則の説明や虐待の具体例を挙げ、研修を行っている。職員会議の場においても、虐待の具体例を挙げ、各自「より適切なかかわりをするためのチェックポイント」を確認し、自分の言動を振り返り、虐待につながっていないか確認している。虐待防止は、職員全体で意識している。

② A3 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A3
---------------------------------------	---	----

<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例(ヒヤリハット等)を示し、職員に徹底している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりに迅速に対応できるように、乳幼児からの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うようリスクマネジメントがなされている。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、これによらない援助技術を習得できるようにしている	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制(配置や担当の見直し等)を検討している。	

【コメント】

「より適切なかかわりをするためのチェックポイント」をもとに、より適切な関わりをすることができるよう注意している。昨年度は、外部講師(山梨県立大学・人間福祉学部教授)による「不適切な関わりをしないために」の内部研修を実施した。

③ A4 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A4
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備されている。		
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたとき、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、研修会などで職員に周知している。	○	

【コメント】

家庭で子育てがうまくいかず、保護者の育児放棄・身体的虐待などで入所してきている子どももいるため、施設内では虐待が絶対にあってはならないことと、全職員が認識している。そのため職員は常に研修、会議などで、どのようなことが虐待につながるのかを学んでいる。子どもたちは必ず児童相談所を通して入所してくるため、虐待のあった子どもに関しては、保護者との面会なども制限がある場合がある。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第二号 評価結果	
① A5 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	a	A5
<input type="checkbox"/> 乳幼児に対する受容的・応答性の高いかかわりを心がけている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。	○	
<input type="checkbox"/> どの乳幼児も保護者等、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかかわりを持つことができる体制が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した「担当養育制」をとっている。	○	
<input type="checkbox"/> 担当養育者と個別のかかわりを持つことができる時間を確保している。		
<input type="checkbox"/> 語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体ふれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。	○	

被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。

○

【コメント】

担当養育制を取り入れ、特定の大人との愛着関係・信頼関係ができるように配慮して養育している。保護者の面会が少ない子どもには、できる限り、一対一で外出ができるようにしている。特に虐待経験のある子どもには、特別な配慮をして情緒の安定に努めている。常に、だっこ、おんぶなどで身体的ふれあいを多くとり、安心できる関係を作り上げている。

②

A6 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。

b

A6

日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人ひとりにあった形で進められている。

○

施設に子どもが安心して暮らせる温かな家庭的雰囲気がある。

○

居室が安心して、くつろいだり、落ち着ける場所になっている。

○

安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。

○

他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などの個別化が図られている。

○

満足感の得られる養育者との遊びの時間を提供している。

○

自然と触れ合える外遊びが養育者との十分なやりとりを交え提供されている。

○

【コメント】

大人の都合で生活リズムを決めるのではなく、あくまでも子ども主体で養育している。他児と同じ行動をするのではなく、寝たいときに寝るなど、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った関わりをしている。子どもたちは、周りの自然に触れ、ドングリ拾いや虫探しなどを行い、職員と一緒に楽しんでいる。職員と一緒に、買い物に行ったり、散歩に行ったりする機会を設け、社会体験をさせている。

③

A7 子どもの発達を支援する環境を整えている。

b

A7

養育者は、月齢による発達特性(自我の表出等)を認識し、養育に当たっている。

○

入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。

○

一人ひとりの子どもの欲求や要求に対し、抱いたり声をかけるなど、タイミング良く気持ちを受け止め対応している。

○

子どもの個々の発達や状態に応じた適切な言葉を用い、穏やかに言葉かけをしている。

○

言葉を獲得し話し始めた子どもの問いかけには、できる限りその場で応答している。

○

「いや」など駄々をこねたり、自分を表現する力がまだ十分でない子どもの気持ちをくみ取ろうとしている。

○

【コメント】

全職員が子どもの発達の状況や応答的保育の重要性を心得ている。また、子どもの欲求や要求には、すぐに応えるようにしている。自分でできるのに甘えて要求してくるときには、一緒に会話をしながら自分でできるように促している。まだ自分で自分の気持ちがうまく表出できない子どもには、職員が「こんなこと？」と代弁しながら関わり、満足できるように対応している。子どもへの働きかけが適切であったかを常に振り返り、会議などで例を挙げ職員同士で共有している。

(2) 食生活

①

A8 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。

a

A8

授乳は、自律授乳を基本としつつ、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。

○

授乳時は、乳幼児を抱いて、目を合わせ、やさしく言葉をかけ、ゆったりとした気持ちで飲めるように配慮している。

○

<input type="checkbox"/> 授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 一人飲みをさせていない。	
<input type="checkbox"/> 生体リズムの乱れなどで自律授乳や自発的意思の授乳が難しい乳幼児には、その子の状態に応じた授乳を工夫している。	<input type="radio"/>

【コメント】

日々の生活記録に、一人ひとりの授乳時間、量、分量などを記入し、子どもたちの栄養状態がわかるようにしている。授乳はだっこをして、目を合わせ、声かけをしながらゆっくりと行い、心の栄養にもなるようにしている。発達が進んだ子どもは、自分で飲む練習をしているが、職員はできる限り寄り添いながら、見守っている。体重が増えない子どもや、自発的に飲もうとしない子どもには、時間を充分かけ、子どもたち一人ひとりに応じた授乳を行っている。

②	A9 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a	A9
	<input type="checkbox"/> 在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人ひとりに合わせた食の取組が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物や味に慣れさせている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食事をいやがったり遊びだしてしまう場合にも、時間をかけてゆったりとした気持ちで与えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 噛む力を養うために、食品の種類や調理方法を工夫している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 栄養士や調理員等は養育者とともに、咀嚼や嚥下の状況を確認し発育状況や体調を考慮しながら離乳食を進めている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

「離乳食進行表」に沿い、ペーストお粥5グラムから離乳を始めている。現在、離乳食を進めている子どもは2名で、他は幼児食である。離乳食の摂取状況は、栄養士にも見てもらいながら進めている。個々に応じて、味や食べることに無理なく慣れていくようにしている。幼児食になると、いろいろな食材に慣れ、野菜のスティックや固めのパンなどを献立に出してもらい、良く噛むことを習慣づけるようにしている。

③	A10 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	b	A10
	<input type="checkbox"/> 食事場所は清潔に保たれ、明るく楽しい雰囲気でき食事ができるよう工夫している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが食べやすいように、身体に合わせてテーブルと椅子の高さを適切に調整している。		
	<input type="checkbox"/> 乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食前の手洗い、食前食後のあいさつ、食後の歯磨きなどが定着するよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食事の食べ方や量にばらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと視線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。		
	<input type="checkbox"/> 日々の食生活を通じて食べたいものや好きなものが増える工夫がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> お腹がすくリズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人ひとりの発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。		

【コメント】

楽しい雰囲気の中で、職員と一緒においしく食べられることを大切にしている。苦手なものを一口でも食べられたときには、皆で褒めて喜び合っている。食事は皆で楽しく食べているが、椅子の大きさが2種類なので、身体に合わない子どももいる。食事の時の手洗い、あいさつ、食後の歯磨きを習慣付けている。歯磨きは自分でやりたい子どももいるので、歯ブラシは子ども用と職員が使用するものの2本を用意し、自分で磨いてから職員が仕上げをしている。食事の間隔は、一日の生活リズムに合わせ、お腹がすいて不機嫌になるようなことがないように配慮している。

④	A11 栄養管理に十分な注意を払っている。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 栄養だけではなく季節感を取り入れた食事が提供されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に個別に対応した食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の嗜好や栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。	○	
	<input type="checkbox"/> さまざまな「食育」への取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 発達に応じて、食事の準備や食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに興味関心を持つことができるよう工夫している。	○	

【コメント】

栄養士により、離乳食、幼児食の適切な栄養管理を行っている。栄養だけでなく、季節ごとに旬のものや行事食を取り入れている。お食い初めの子には、皆でお祝いし、お祝い膳を囲んでいる。また、その日は児童養護施設の子どもたちにもお祝い膳が付き、お食い初めのいわれなどの話を聞いたりしている。離乳食が始まると、アレルギーがあるかどうかを細かく観察しながら進めている。体調不良の時には、雑炊やうどんなど、体調を見ながら用意している。子どもたちの目の前で野菜や果物などを切り分けたり、皮をむいて見せながら出すこともある。ゼリーやプリン、ヤクルトなどは、冷蔵庫に保管し、いつでも食べられるようにしている。

(3) 衣生活

①	A12 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a	A12
	<input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。		
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。		
	<input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 寝ている生活が主などときは前開きのもひを、動きが活発になったら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。	○	

【コメント】

衣類は、保護者が持ってきたり、職員が購入して補充している。子どもたちのサイズに合った、清潔で動きやすいものを着用している。また、季節の変わり目などには、職員が衣服の入れ替えをし、気候の変化に合わせて快適に過ごせるようにしている。衣類購入の際には、子どもが好きなキャラクターのものを購入するなど、子どもの興味などを考慮している。衣類は各自の引き出しに入れ、個別に収納・管理している。

(4) 睡眠

①	A13 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 室内の環境として、温・湿度、換気、明るさ、静かさ、音楽などを快適に保っている。		
	<input type="checkbox"/> 寝具の環境として、肌に触れる素材は綿素材を用い、広さ、形状、硬さなどを快適に保っている。		
	<input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。	○	
	<input type="checkbox"/> 快適に十分な睡眠をとれるよう、個々の乳幼児の発達・心理に配慮した職員の対応など具体的な独自の取組を行っている。		

【コメント】

1歳未満児は15分ごと、1歳以上児は30分ごとに、呼吸状況や睡眠の状況を確認している。乳幼児突然死症候群の予防に努めるとともに、夜間の授乳を行うことや夜間のオムツ交換の対応などがある。どちらを向いて寝ていたか、授乳量、排泄の状況などはすべて記録に残し、他の職員も共有できるようにしている。ハード面で、寝室が狭いため、子どもたちは寝付くまで、他の子どもが気になることもある。

(5) 入浴・沐浴

①	A14 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a	A14
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 浴室・沐浴槽などの設備やタオル・バスタオルなどの備品は常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の年齢、発達、発育等、個々の状況に応じた入浴方法がとられている		
	<input type="checkbox"/> 安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴に際し、おもちゃ等を用意し、心地よい体験になるよう工夫している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

よちよち歩きの子どもは、職員が一对一で、毎日入浴している。幼児になると、2人や3人で職員と一緒に入浴している。乳児は、沐浴槽を使い、毎日沐浴をしている。入浴時は子どもたちとのコミュニケーションの場と捉え、一人ひとりに声かけをして、身体に異常がないか、観察している。子どもたちは入浴が大好きで、入浴の声かけをすると率先して入ろうとしている。

(6) 排泄

①	A15 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	b	A15
	<input type="checkbox"/> おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をマッサージなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、排泄への興味が持てるように配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

乳児のおむつ交換の際には、「気持ち悪かったね」、「きれいにしようね」、「気持ち良くなったね」など声をかけながら、綺麗になる心地よさを言葉で伝え、コミュニケーションを図っている。幼児期になると、一人ひとりの子どもの様子や排泄間隔を確認しながら、トイレに誘導するなどのトイレトレーニングを行っている。トイレで排泄できた時には、共に喜んで自信につなげている。パンツへの移行も、スムーズに行っている。

(7) 遊び

①	A16 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかかわりができるように配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/> 子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。	
<input type="checkbox"/> 月齢により、収納場所を設け、玩具の個別化をし、自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。	○

【コメント】

職員や友達と一緒に、園内外で十分に遊び、情緒の安定を図り、人との関わりが持てるようにしている。誕生日やクリスマスに、おもちゃをプレゼントしている。おもちゃは、子どもの発達に応じて、職員が購入しているが、家族等が持ってくることもある。おもちゃは子どもたちそれぞれの引き出しに入れ、取り出して遊べるようにしている。小さい子どもは、メリーゴーランドなど、月齢にあったおもちゃで楽しんでいる。天気の良い日は近くの公園で、思い切り身体を使って遊んでいる。

(8) 健康

① A17 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a	A17
<input type="checkbox"/> 健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	○	
<input type="checkbox"/> 日常的に医療機関等と適切に連携するよう努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 異常がある場合には、医療機関を受診するなど適切に対応している。	○	
<input type="checkbox"/> ミルクや離乳食を開始した当初は、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。	○	

【コメント】

アレルギー対応のある子どもは現在いないが、離乳食が始まると、少量ずつ状態を見ながら進めていくようにしている。子どもたちの日々の生活記録や看護師の看護記録などを確認しながら、体調の変化に気を付けるようにしている。「緊急時対応マニュアル」があり、急変があった時には看護師と連携し、さらに小児科の嘱託医へ連絡して、受診している。小児科を中心に、耳鼻科や外科、皮膚科、歯科など、その症状に応じて近隣の医療機関に受診している。乳幼児突然死症候群対策として、夜間は15分～30分おきに、睡眠の状態や姿勢などのチェックを行っている。

② A18 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	b	A18
<input type="checkbox"/> 病・虚弱児等個々の健康状態の変化が、常に把握できるように工夫している。	○	
<input type="checkbox"/> 服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 専門医や主治医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた療育計画や発達支援計画などを含む支援のプログラム等を作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 専門医や主治医による定期的な診断を受けている。	○	
<input type="checkbox"/> 異常所見がみられた場合には、速やかに専門医や主治医に相談できる連絡体制をとっている。	○	

【コメント】

アトピー性皮膚炎の子どもがいるが、定期的な受診と日々のケアで良くなってきている。喘息気味の子どもが数人いるが、部屋の埃に気をつけることや、夜間咳が出たときは吸入を行うことなど、医師からの指示のもと、子どもの状態に応じて対応している。看護師から対応方法も学んでいる。

(9) 心理的ケア

①	A19 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を必要とする乳幼児について、保護者等への支援も視野に入れた自立支援計画や養育計画に基づき、心理支援内容が明示されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理支援内容には、個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理職をおき、乳幼児にも保護者等にも心理的援助を行える体制が整っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関する職員研修やコンサルテーションが行われている。		

【コメント】

「みんないっしょの養育」の理念に基づき、障害のある子どもも、障害のない子どもも、安心した生活を送ることができるよう、日々、職員が子どもに関わっている。職員は、子どもがまだ言葉での意思表示ができていないことを考慮し、日々の生活の中で子どもをよく観察し、かんしゃくを起こす子どもなどには丁寧にかかわっている。心理士は、「乳幼児における心理職のガイドライン」を参考にしている。また、保護者への支援を含め、自立支援計画に心理面での支援内容を明記している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A20 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員が中心となって施設と家族との信頼関係を構築するように努めている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設が家族と共に子どもの成長を喜び合う雰囲気を大切にしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 面会時に必要に応じて保護者等の養育スキルの向上を支援している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の相談に積極的に応じるための保護者等面接の設定等、専門的なカウンセリング機能の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員は、家族に寄り添い、保護者等の言葉を傾聴する役割を担っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子を写真やお手紙に書いて家族に伝えている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

保護者との愛着関係の重要性を考え、心理士や家庭支援専門相談員（FSW）を中心に、家族との関係作りを重視している。会いたい時には、毎日でも面会に来ることができる体制をとり、保護者と子どもの関係作りを実践している。抱っこするのが怖くてできなかった保護者も、面会に来るたび、職員と一緒に抱っこの仕方を学び、その様子を記録している。おむつ交換、調乳の仕方などを一緒にすることにより、保護者の養育意欲が高まっている。月1回のお便りや写真を家族に渡し、日々の子どもの発達状況を知らせている。児童相談所との情報交換も密に行っている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A21 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A21
	<input type="checkbox"/> 家庭支援に関する具体的なプログラムや配慮事項が明記されている。		
	<input type="checkbox"/> 入所理由の理解とケアの方向性についてアセスメントしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、施設宿泊、一時帰宅などを計画的に設定し、乳幼児と保護者等との関係性が好転し、保護者等の養育意欲が向上するよう支えている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりがあった場合には、その発見ができるよう努めている。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 課題の内容によっては適切な機関につなげられるよう、地域の精神、心理相談のできる機関を十分に把握し、連携をとっている。	
<input type="checkbox"/> 児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。	○

【コメント】

家庭支援に関する配慮事項などは、入所時に児童相談所から説明がある。施設では、保護者の面会を多くし、外出、外泊と様子を確認しながら進めている。外出や外泊後の子どもの様子を注意深く観察し、気になることがあった場合は、クラス会議や施設内で情報を交換し、状況によっては児童相談所とも連携を取りながら、家族支援を行っている。また、市主催のサポートチーム会議に参加し、児童相談所や保健所などと連携して、家族機能の再生に向けた話し合いを行っている。

(12) スーパービジョン体制

①	A22 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性の向上や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	○

A22

【コメント】

スーパーバイザーの配置はないが、職員指導のための基幹的職員を置いている。施設の人材育成のため、施設長や主任が職員に助言ができる体制をとっている。月1回の職員会議には施設長や心理士も出席し、子どもの養育について助言している。